

W5章 「の」の9相

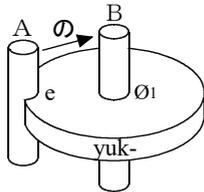
この章では次のようなことを扱います。

- W5.1 AへのB……表示できる格 (68)
「秋田のバス」より「秋田へのバス」のほうが理解しやすい？
- W5.2 AへのB……格の代用 (70)
「母が子どもを愛する」が「子どもへの愛」になるのはなぜ？
- W5.3 「ので基」「のに基」(73)
「雨が降るので家にいる。」の構造を示します。
- W5.4 「のだ基」「のです基」(74)
「あした学校へ行くのくだです」／の？」の構造を示します。
- W5.5 「魚のおいしいの」の構造 (76)
実体「の」を名詞と形容詞等で同時に修飾する形を説明します。
- W5.6 「結婚するの望み」の構造 (77)
「結婚する望み」でよいのに、なぜ「の」が入るのかを説明。
- W5.7 「自由の女神」と「自由な女神」(78)
「自由の女神」と「自由な女神」の構造の異同について説明。
- W5.8 「この」と「こんな」(79)
両者がどのような構造をしているのかを説明します。
- W5.9 強調構文の構造 (80)
強調構文がどのような構造をしているのかを説明します。

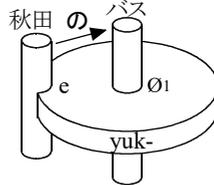
W5.1 AへのB …… 表示できる格

「AのB」を表現するとき、Aの立っている格を示して、たとえば「AへのB」としたほうが理解しやすいことがあります。

「秋田のバス」よりは「秋田へのバス」のほうが理解しやすいでしょう。



図W5-1 AのB/AへのB



図W5-2 秋田のバス/秋田へのバス

なぜかといえば、「秋田のバス」では、「秋田」と「バス」の論理関係がどうなっているのか分かりにくいのですが、「秋田へのバス」なら、動詞が「行く」だろうと推測されて、その論理関係が把握しやすくなるからです。

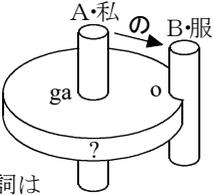
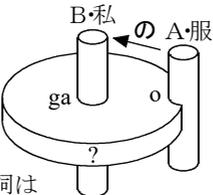
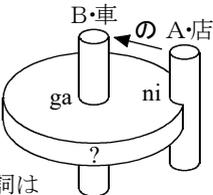
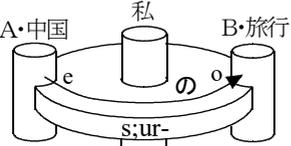
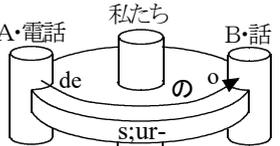
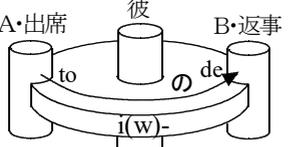
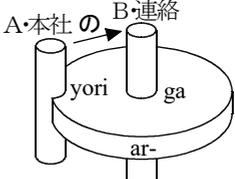
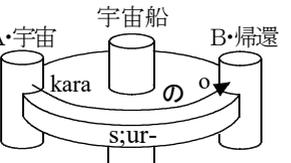
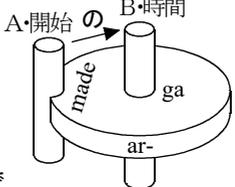
つまり、「A」の立っている格を表現すれば、動詞が推測できるようになって、論理関係を理解しやすくなるわけです。

では、このことはすべての格についていえることでしょうか。

表W5-1 「格詞+の」という表現での「格」表示のあり・なし

No.	格	格の意味	格詞+の	可否	表示	形式	例
①	Ø1	文法的意味	Ø1	の	—	<u>A</u> Ø1のB	(<u>私</u> Ø1の服)
②	が		が	の	×	* <u>A</u> がのB	* <u>私</u> がの服
③	を		を	の	×	* <u>A</u> をのB	* <u>服</u> をの私
④	に	語彙的広範の意味	に	の	×	* <u>A</u> にのB	* <u>店</u> にの車
⑤	へ	語彙的限定的意味	へ	の	○	<u>A</u> へのB	<u>中国</u> への旅行
⑥	で		で	の	○	<u>A</u> でのB	<u>電話</u> での話
⑦	と		と	の	○	<u>A</u> とのB	<u>出席</u> との返事
⑧	より		より	の	○	<u>A</u> よりのB	<u>本社</u> よりの連絡
⑨	から		から	の	○	<u>A</u> からのB	<u>宇宙</u> からの帰還
⑩	まで		まで	の	○	<u>A</u> までのB	<u>開始</u> までの時間
⑪	Ø2				—	<u>A</u> Ø2のB	(<u>明日</u> Ø2の会議)

この表のように、「が格/を格/に格」には、上の下線を施した部分に述べたことは当てはまりません。「が/を/に」格の表示は不可能です。なぜでしょうか。
(①「Ø1」格と、⑩「Ø2」格は、音形式がないので、この考察からはずします。)

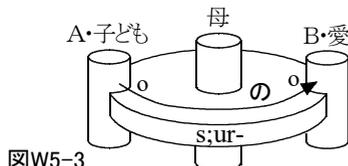
<p>② *AがのB *私がの服</p>  <p>動詞は 買う, 着る, 作る, たたむ?</p>	<p>③ *AをのB *服をの私</p>  <p>動詞は 借りる, 貸す, 売る, 見る?</p>	<p>④ *AにのB *店にの車</p>  <p>動詞は ある, 行く, 届く, 向かう?</p> <p>「が」はAが主格にあることを, 「を」はAが目的格にあることを示すだけです。「がの」「をの」と言わないのは, 動詞を推測しにくく, 論理関係を推測しにくいからです。 (元来, 主格・目的格の格詞は0でした。)</p> <p>「に」は格の意味が多く, 動詞が推測しにくい, 論理関係が把握しにくいので, 「にの」と言いません。</p>
<p>以下の⑤～⑩の「へ・で・と・より・から・まで」の格は, 格の意味が比較的限定されていて, 動詞が何であるかを推測しやすいです。それで, 「の」をつけて表層化できます。</p>		
<p>⑤ AへのB 中国への旅行</p>  <p>中国へ そこへ移動することを表す動詞を推測</p>	<p>⑥ AでのB 電話での話</p>  <p>電話で それを手段とすることを表す動詞を推測</p>	
<p>⑦ AとのB 出席との返事</p>  <p>出席と それを内容とする引用を示す動詞を推測 (ほかにもあり)</p>	<p>⑧ AよりのB 本社よりの連絡</p>  <p>本社より そこを起点とすることを表す動詞を推測</p>	
<p>⑨ AからのB 宇宙からの帰還</p>  <p>宇宙から そこを起点とすることを表す動詞を推測</p>	<p>⑩ AまでのB 開始までの時間</p>  <p>開始まで それを期限とすることを表す動詞を推測</p>	

前ページで、②「AがのB」、③「AをのB」、④「AにのB」とは言わないと書きました。言いたいときは次のように異なる格を代用します。③④②の順で説明します。

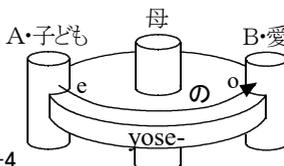
③ AをのB → AへのB

「愛する」は構造では「愛(を)する」です。「愛」はもと中国語で、日本語にとっては外来語ですので、動詞ではなく名詞です。これは「勉強する」が「勉強(を)する」となっているのと同じです。

「愛」は構造では実体(名詞)として、動詞「する s;ur-」の o 格に立っています。



図W5-3



図W5-4

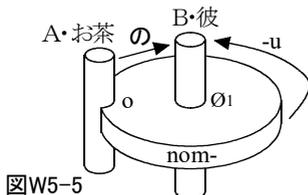
母が子どもを愛する/*子どもをの愛 → 母が子どもへ愛を寄せる/子どもへの愛

「母が子どもを愛する」では「*子どもをの愛」になりそうですが、「子どもへの愛」となります。前ページで見たように「をの」は使えないので、「へ格」を代用します。これで「愛」の向かう方向を保つことができます。

ただし、もし、「を」を生かす(格を描写する)のであれば、「の」を使わないで、動詞「愛する」(を愛する)で「母」を修飾します。…… 子どもを愛する母 (下の⑥)

「を格」が方向性の弱い場合は、「へ格」を代用せずに、次のどちらかにします。

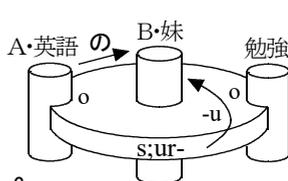
- ① 格を描写しないで、「の」で実体を修飾する。
- ② 格を描写して、「の」を使わないで、動詞で実体を修飾する。



図W5-5

彼がお茶を飲む→*お茶への彼

- ① お茶をの彼
- ② お茶を nom-u 彼



図W5-6

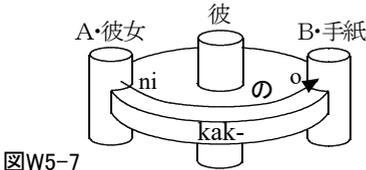
妹が英語を勉強する→*英語への勉強

- ① 英語をの妹, 英語をの勉強
- ② 英語を勉強 s;ur-u 妹

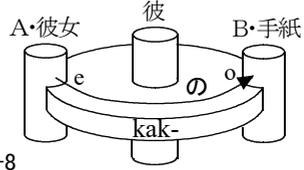
問W5-1 「健康を祈る」が「健康への祈り」になることを説明してください。

④ AにのB → AへのB

「彼が彼女に手紙を書く。」からは「*彼女にの手紙」が出てきますが、「にの」とは言えないので、「への」を代用します……「彼女への手紙」。



図W5-7



図W5-8

彼が彼女に手紙を書く／*彼女にの手紙 → 彼が彼女へ手紙を書く／彼女への手紙

これは、pp.32-33 で述べたように、「に」には多くの論理関係があり、想定される動詞が多いので（例：「彼女に〈来た、ある、書く、もらう、宛てる…〉」）、「にの」と言うと、論理関係が把握しにくいからです。（「がの」「をの」も同じ。）

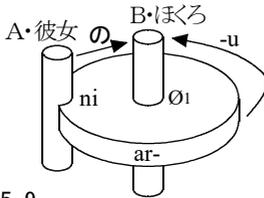
「へ格」の「へ」なら、意味が限定的で、Aが「方向・着点」を表していることが明白なので、論理関係が理解しやすくなります。

「Aにの」では、意味が把握しにくく、「Aへの」では、意味が把握しやすいということになります。

ただし、もし、「に」を生かす(格を描写する)のであれば、「の」を使わないで、動詞「書く」(に書く)で「手紙」を修飾します。…… 彼女に書く手紙 (下の㉔)

「に格」が方向性の弱い場合は、「へ格」を代用せずに、次のどちらかにします。

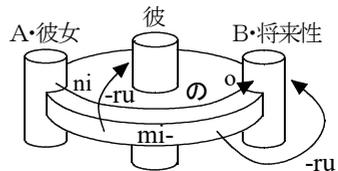
- ㉔ 格を描写しないで、「の」で実体を修飾する。
- ㉕ 格を描写して、「の」を使わないで、動詞で実体を修飾する。



図W5-9

彼女にほころがある→*彼女へのほころ

- ㉔ 彼女_にのほころ
- ㉕ 彼女に ar-u ほころ



図W5-10 彼が彼女に将来性を見る

→*彼女への将来性

- ㉔ 彼女_にの将来性
 - ㉕ 彼女に mi-ru 将来性
- 彼女に将来性を mi-ru 彼

問W5-2 「大学に進学する」が「大学への進学」になることを説明してください。

② AがのB → AによるB

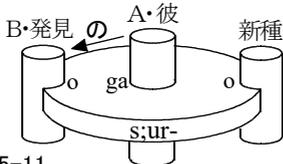
「発見する」は構造では「発見(を)する」です。

一般に、Aが主格にあるときは、主格詞はO₁で「A O₁のB」とします。

彼が新種を発見する。→ 彼の発見 (彼 O₁の発見, *彼がの発見)

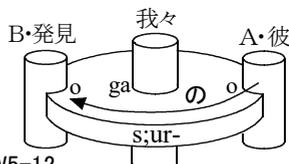
しかし、「彼の発見」では、「彼」が「を格」にある場合と同じになっています。

(我々が) 彼を発見する。→ 彼の発見 (彼 O_をの発見)



図W5-11

彼が新種を発見する→彼の発見



図W5-12

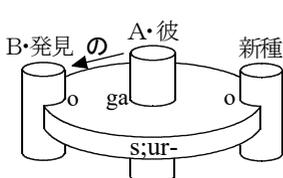
我々が彼を発見する→彼の発見

それで、Aが主格にあることを示すためには、文を受身文の形にして、「Aにより」というように、Aがその受身文の動詞の主体であることを示すようにします。このとき、Aは「が格」ではなく、「に格」で表現できるようになります。格の代用です。

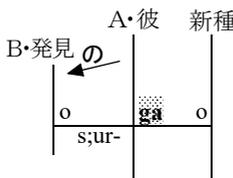
彼が新種を発見する。

→ [受身文] 新種が 彼により 発見される。

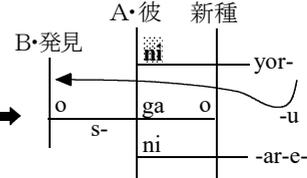
→ 彼による発見 (「の」は使いません。連体機能は-uにあります。)



図W5-13 彼が新種を発見する
彼の発見



図W5-14
(左図の簡略表示)



図W5-15 (受身)新種が彼により発見される→彼による発見

つまり、「AのB」のAが主格にあるときは、もとの文を受け身の形にして、Aを「に格」に置くことにより、「AによるB」「A-ni yor-u=B」と表現します。(格の代用)

図W5-15 の「AによるB」「A-ni yor-u=B」の yor- (因る) は動詞で、「(A)に原因をもつ」を意味します。図の意味することは、「新種が、彼に原因をもち、発見される。」ということです。この図では、yor-u が実体「発見」を修飾しています。

問W5-3 「彼の無視」より「彼による無視」のほうが誤解がないのはなぜ？

問W5-4 「彼が彼女を説得する」を「～による～の説得」の形にしてください。

W5.3 「ので基」「のに基」

『文法』37.2

「の・で」「の・に」

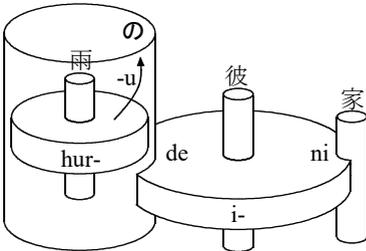
包含実体「の」の文法的意味は、一定の構造を実体として使えるようにすることです。文を名詞にすることです。「の」には語彙の意味はありません。(W4.6参照)

この「の」は、「で格」に置かれると順接を表す形「の・で」となり、「に格」に置かれると逆接を表す形「の・に」となります。

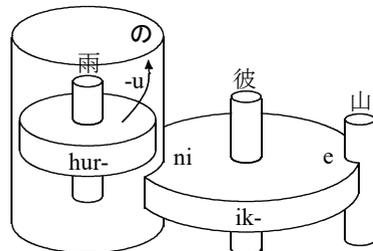
「ので/のに」は「基」です(詞の一定の複合形式が一定の意味で使われます)。

雨が降るの・で、家にいる。(hur-u の-de) ので基

雨が降るの・に、山へ行く。(hur-u の-ni) のに基



図W5-16 雨が降るので家にいる



図W5-17 雨が降るのに山へ行く

「の・で」の de 格は「理由」を表し、「の・に」の ni 格は「逆接的な状況」を表します。国語文法では、「ので」「のに」を「接続助詞」としています。しかし、構造で見ると、「の」は「包含実体」で、「で/に」は格詞です。

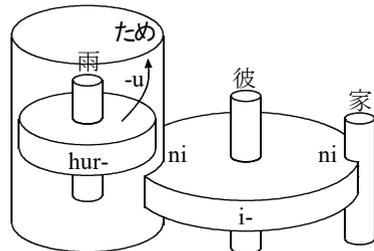
「ため」

「ため」も包含実体としての使い方がありますが、「の」と異なり、そのものに「理由・目的」という意味があります。

(7) 雨が降るため・(に)、家にいる。

(hur-u ため-ni)

「ため」の場合は、「に格」表示をしないほうがふつうでしょうか。



図W5-18 雨が降るため(に)家にいる

問W5-5 「のに」では、「に格」が逆接的な状況の気持ちを表していますか。

問W5-6 「試合するからには勝利をめざす。」の構造を示してください。

W5.4: 「のだ基」「のです基」

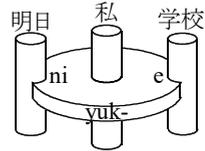
『文法』 37.1

「あした学校へ行く。」に「の」をつけると、「あした学校へ行くの。」となり、何か気持ちが付け加えられた文になります。なぜでしょうか。

ふつうの構造

次の構造をふつうの構造と考えることにします。

あした学校へ行く。



図W5-19 明日学校へ行く

「の」の構造

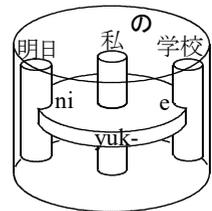
「の」は文を実体化するだけ。

これに「の」をつけると、こうなります。

あした学校へ行くの。

すると、構造では、「明日学校へ行く」という構造が「ノ包含実体」の中に入ったことになり、文が全体として実体(名詞)となり、新たな動詞の何らかの格に置かれる可能性を得たことになります。

この「の」のついた文を「の文」とします。



図W5-20 明日学校へ行くの

他の構造と関わる「の文」の構造

ここでは、上の「の文」が別の構造

私01, 会合を休む

の「で格」に置かれたものと考えます。

あした学校へ行くの で

私01, 会合を休む

つまり、「あした学校へ行くの。」

という「の文」は、「会合を休む」こと

「理由」を表していることになります。 図W5-21 明日学校へ行くの で 会合を休む

この「の文」は、「理由」のほかいろいろなことを表すことができます。

[予定] あした学校へ行くの (が, 予定になっている。)

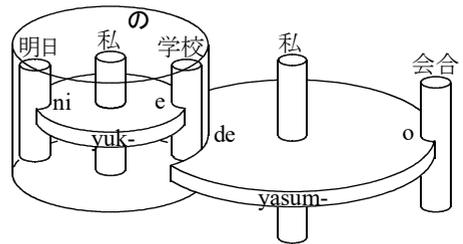
[結果] あした学校へ行くの (が, 思案のうえの結果となった。)

[決意] あした学校へ行くの (が, 私の決意。)

[自慢] あした学校へ行くの (で, 自分をほめてやりたい。)

[命令] あした学校へ行くの (を, 命じる。)

ほかにも、あとに省略された構造によっていろいろな気持ちの表出となります。



図W5-21 明日学校へ行くの で 会合を休む

問W5-7 ある「の文」が、「原因」、「主張」、「実情」を表す例を考えてください。

「のだ基」「のです基」

「だ・です」の構造については S1.7 参照。

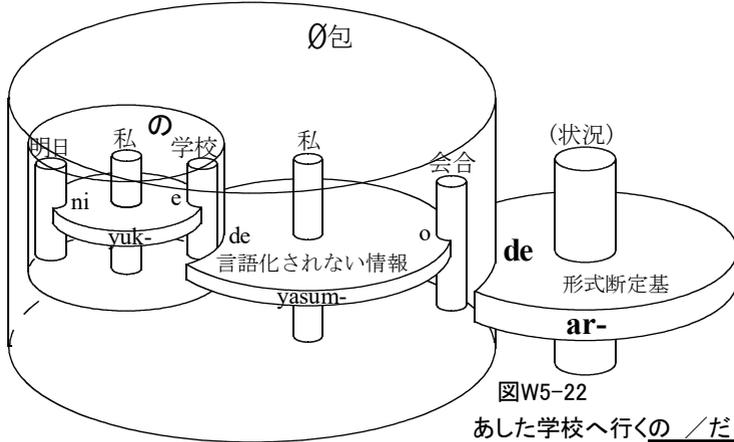
「の文」から「のだ」「のです」の文が作られます。

あした学校へ行くの /だ・です。 (……ん /だ・です)

これは、次の文で () 内が表現されず、含蓄となったものと考えられます。

あした学校へ行くの (で 私の1, 会合を休む) /だ・です。

これは、「うなぎ文」に似ていて、「だ・です」は文の体裁にするための「形式補充」と考えられます。「のだ・のです」はこの形で用いられる「基」になっています。



……の? ……のですか?

「の文」形式は疑問文ともなります。

- (1) あした学校へ行くの? (右図上)
- (2) あした学校へ行くのか? (右図上)

「理由」などであることを聞く気持ちを表して疑問文になっています。(左ページ参照)

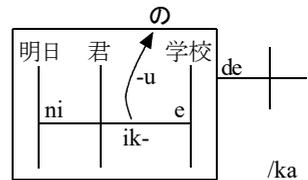
(1)は「の」を上げることにより、(2)は「か」の使用により、疑問の気持ちを表しています。

次の疑問文とは、若干異なります。

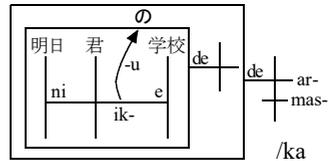
あした学校へ行く /行きますか? (図省略)

「のです基」も「のですか」で疑問文となります。

あした学校へ行くのですか? (右図下)



図W5-23 ……の? /のか?



図W5-24 ……のですか?

問W5-8「彼は子どもが優勝したんだ。」の構造を示してください。

W5.6: 「結婚するの望み」の構造

芸能人と結婚するの望みあり。

この文は、文法上、「の」は必要なく、ふつうは次のように言います。

芸能人と結婚する望みあり。(芸能人と結婚する望みがあります。)
なぜ「の」を入れるのでしょうか。同様の例として次のようなものがあります。

いにしえを懐かしむの情 あざむかざるの記
その部屋に入るの瞬間 カラオケに行くの巻

これは漢文を学ぶ際に生じた用法だということです。(室町中期以後の発生)
漢文にこういう表現があります。

終食之間 (食事が終わるまでの間)

この表現の中の「之」は、日本語の文法では読む必要はありません。

食ヲ終フル間 ショクヲ・ヲフル wohur-u・ヒマタ (-uが名詞修飾)

しかし、こう読むと、漢文に「之」の字があることを忘れてしまいます。それで

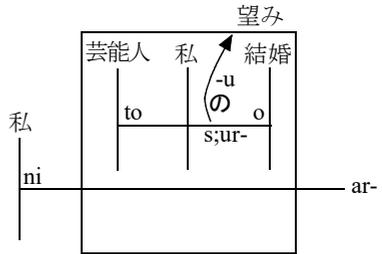
食ヲ終フル之間 ショクヲ・ヲフル wohur-u・ノ・ヒマタ

と読むようになりました。日本語の文法としてはおかしいですが、こう読めば、
漢文中に「之」の字があることを忘れないので、漢文を間違いなく復元できます。

では、これを構造上に示すときは、どうすればよいでしょうか。

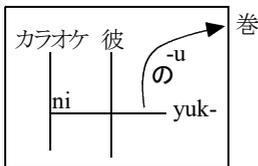
芸能人と結婚するの望みあり。

「するの」の部分は「s;ur-u の」です。-u は連体機能をもつので、「望み」を修飾するには -u で十分です。ですが、「名詞つなぎのの」を伴っていますので、図示では、文法的には余分な「の」を添えることにします。

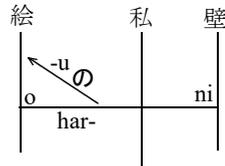


図W5-29 芸能人と結婚するの望みあり

「カラオケに行くの巻」や、「壁に貼るの絵」の構造も下のように図示します。



図W5-30 カラオケに行くの巻



図W5-31 壁に貼るの絵

漢文調にしたいときにこの「-(r)u の」を使います。文法的には違和感があります。

問W5-10 「いにしえを懐かしむの情、にわかには湧き起こりたり。」の構造は？

W5.7 「自由の女神」と「自由な女神」

『文法』37.6

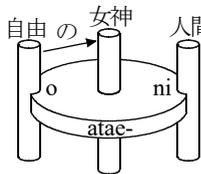
自由の女神

「自由の女神」は「自由な女神」と同じ？

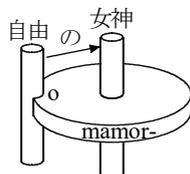
「自由の女神」で、「の」は「自由」と「女神」がある論理関係を持つことだけを示します。その論理関係は、両者を結びつける属性が何であるかで決まります。

女神は人間に自由を与える。(人間に自由を与える女神) → 自由の女神
 女神は自由を守る。(自由を守る女神) → 自由の女神
 女神は自由を好む/嫌む。(自由を好む/嫌む女神) → 自由の女神
 自由は女神を愛する/憎む。(女神を愛する/憎む自由) → 自由の女神

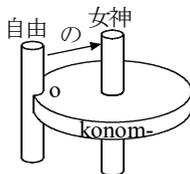
以上は一例ですが、みな「自由の女神」が出てきます。



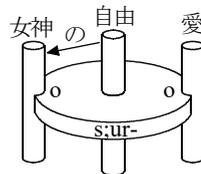
図W5-32 自由の女神



図W5-33 自由の女神



図W5-34 自由の女神



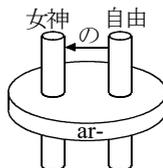
図W5-35 自由の女神

また、極端ですが、「女神の1は自由がない。」からも「自由の女神」が出てきます。

女神の1は自由がない。(自由がない女神) → 自由の女神
 女神の1は自由がある。(自由がある女神) → 自由の女神



図W5-36 自由の女神



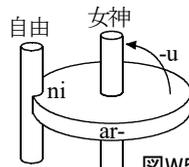
図W5-37 自由の女神

自由な女神

以上のように、「自由の女神」は、多様な論理関係から出てきます。一方、「自由な女神」のほうは、「女神が自由(状態)にある」の1つの論理関係からしか出てきません。

自由にある女神 (自由-ni ar-u 女神)

なお、「自由な女神」からも「自由の女神」は出てきます。



図W5-38

自由な(ni-ar-u)女神

問W5-11 「自由の女神」は、ふつうは上のどの構造ですか。

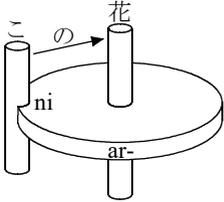
問W5-12 「静かな海」と「静か海」は、同じことをいっていますか。

W5.8:「この」「こんな」

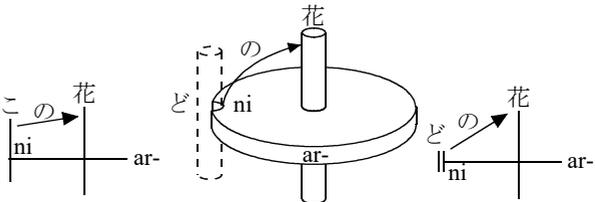
『文法』37.7

この花

「この」は「の」がついていますから、「こ・の」と分解できます。では、「こ」とは何でしょうか。……現在では「こ」だけでは使われませんが、奈良時代には「こ」だけで、自分側の「これ」「ここ」の意味でした。つまり、「この花」は「ここの花」とであると考えられます。構造は下左図のようになります。



図W5-39 この花



図W5-40 どの花

「そ・の」の「そ」は相手側を指しています。「あ・の」の「あ」は自分や相手から遠いところを指しています。「その花」「あの花」の構造は「この花」と同じと考えられます。（「あ a」の古形は「か ka」であったといわれています。）

「ど・の」の「ど」は、次の変化で生まれたようです。構造図は上右図。

「いづく（「く」は場所を表す）→「いづくこ」→「いどこ」→「どこ」→「ど」
「ど」は「疑問実体」ですから、属性の格の部分に空所を作ります。W6.3[2]参照。

こんな花

（「の」は関係ありません。）

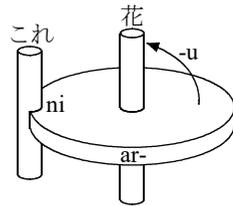
「こんな花」を意味から推測して「このような花」の変化形だとすると、音声的に説明できません。「これなる花（これにある花）」なら説明できます。

- kore-ni ar-u 花 （これにある・これなる花）
- kon-n ar-u 花 （こんなる花）
- kon-n a 花 （こんな花）

上の「r-母音-n」が「nn」になることはよくあることです。例: tor-u na yo → tonna yo

wakar-ana.k-i → wakanna.k-i

「そんな／あんな／どんな」も同様に、「それなる／あれなる／どれなる」の構造と考えられます。



図W5-41 これなる花→こんな花

問W5-13 現代語では a-no のほうが普通ですが古語的な ka-no もあります。例は？

問W5-14 「r-母音-n」が「nn」になる例を挙げてください。

W5.9: 強調構文の構造

『文法』37.5

強調構文とよばれる文には、2種類のものがあると考えられます。

- ① 強調構文A……実体を強調 (強調構文Bの簡略形式とも考えられます。)
- ② 強調構文B……格つき実体を強調

この2種類について検討します。

① 強調構文A……実体を強調

たとえば、こういう文があります。

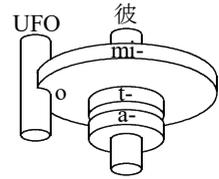
彼がUFOを見た。(図W5-42)

この文の中の特に強調したい実詞(名詞)を取り出して、次のような形式にしたものが強調構文です。

〔「彼」を強調〕 UFOを見た の は 彼だ。(図W5-43)

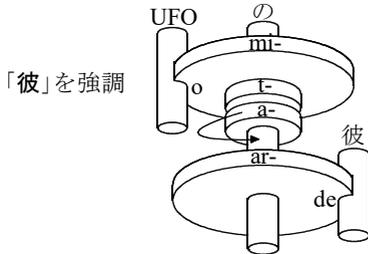
〔「UFO」を強調〕 彼が見た の は UFOだ。(図W5-44)

下図のような示し方になります。



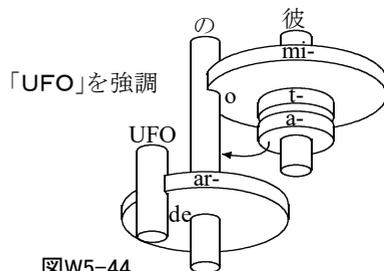
図W5-42

彼がUFOを見た



図W5-43

UFOを見た の は 彼だ



図W5-44

彼が見た の は UFOだ

強調構文Aの構造は、次のように作ります。

- ・図W5-42 のような構造の中の強調したい実体をノ実体に置き換えます。
- ・そのノ実体を属性 ar- の主体とします。(図5-43,-44)
- ・強調したい実体を ar-の de 格(同定格)に置きます。

なお、疑問文の場合、強調される実詞が初めに描写されることがあります。

〔「彼」を強調〕 彼？ UFO見たの(は)。 図W5-43

〔「UFO」を強調〕 UFO？ 彼が見たの(は)。 図W5-44

問W5-15 「彼女が写真を撮った」と「写真を撮ったのは彼女だ」の構造は。

問W5-16 「白い靴を買う」と「買うのは白い靴だ」の構造を示してください。

② 強調構文B……格つき実体を強調

彼がソウルから帰った。(図W5-45)

この文の「ソウル」を強調したい実体と決めて、
強調構文Aを作ると、こうなります。

彼が帰った の は ソウルだ。

ところが、これは、ソウルへ帰ったことを意味してしまいます。「帰る」という動詞を用いる

とき、「へ格」の方が「から格」より認識の優先度が高いからです。(pp.15-16)

彼が帰った の は ソウル(から) だ。……「から」 優先度が低い

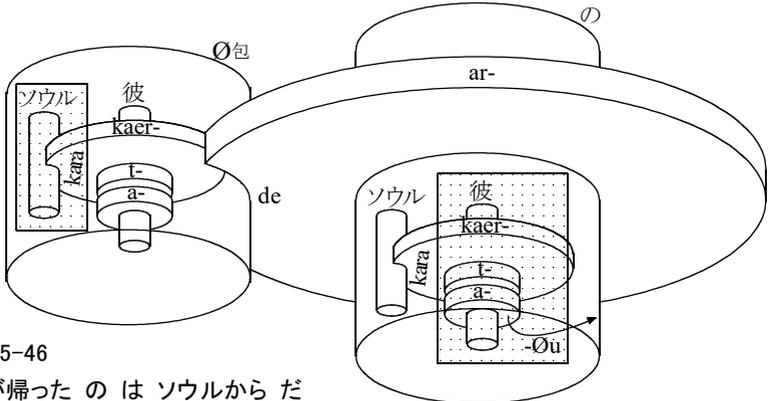
彼が帰った の は ソウル(へ) だ。……「へ」 優先度が高い

認識の優先度が低い格にある実体を強調するときは、格詞も一緒に表現する必要があります。次の「ソウルから」のようにしたものが強調構文Bとなります。

彼が帰った の は ソウルから だ。

強調構文Bの構造は、次のように作ります。

- ・図W5-45 のような構造を「の」と「0包」の2つの包含実体に入れます(下図)。
- ・包含実体「の」を動詞 ar- の主体とし、包含実体「0包」を「de 格」に置きます。ここから次の表現を導きます。
- ・強調したい実体を「0包」から、格つきで表現……ソウルから 0包-de ar-
- ・それを除いた部分を「のは」で表現……彼が kaer-i-t-0=a-0u のは



図W5-46

彼が帰った の は ソウルから だ

疑問文の場合、強調される実詞が初めに描写されることがあります。

ソウルから？ 彼が帰ったのは。

問W5-17 「彼は3時に話す」「彼は3時まで話す」の「3時」を強調してください。

問W5-18 「彼は明日友人と飲む」の「明日」「友人」をそれぞれ強調してください。

コラムW3

国語文法は伝統芸能？

8c	9c	10c	11c	12c	13c	14c	15c	16c	17c	18c	19c	20c	21c
奈良		平安			鎌倉		室町		江戸			現代	
……素朴な言語認識……													
				語の類別 現代的									
				「てにをは」 文法研究									
				活用									
				語句の照応									
				構造									

現代的文法研究 今日私たちが国語文法と称しているような文法の研究は、江戸時代の諸研究をふまえて、明治時代から始まっています。明治時代以降、多くの文法家が出て、理論的研究をしてきました。その中から何人かの大文法家が出て、研究に大きな影響を与えました。

かな文法 しかし、その研究は江戸時代の研究をふまえていたので、いずれも「かな」を用いての研究でした。「かな」での研究では音素 (a, k, s など) は単位とならず、拍 (あ a, か ka, し si など) が単位となります。「読む」は yom-u と分析するのが正しいのですが、実際は「よ-む yo-mu」と分析され、「よ yo」が語幹で、「む mu」が「終止形語尾」であるとされます。すべての国語辞典がこのように扱っています。(私と同じくこれを恥ずかしいと思う日本人は何人いるのでしょうか。)

国語文法は素晴らしい文法？ すべての大文法家の学説は「かな」を用いているため、言語学とは異なる日本語独特の珍妙な文法になっていますが、国語学者は、日本語には言語学とは別の優れた国語文法があると錯覚し、信じきっています。(ただし、日本では、私の印象ですが、言語学者のほうも、競ってアメリカ等の新理論を導入しようとするばかりでした。その理論がどれほど日本の文法理論に貢献したのかは結果で知ることができます。)

記述のみで、説明はしない 現在のほとんどの国語研究者は、大文法家の学説を大事に守っています。その学説の枠内で、記述的に研究を行うばかりで、説明的な研究はしません。日本語が「どう」あるかの研究はしますが、「なぜ」そうあるかの研究はしません。できません。かなの「拍」が単位なので、自由度がないのです。

国語文法は伝統芸能？ 「国語文法」は科学ではなく、いわば「伝統芸能」です。科学なら、法則を発見すべく、方法を考え、体系的知識を求めたはずです。そうではなく、伝統芸能だからこそ、師匠の芸を尊重し、芸を修正しても師匠の意趣を逸脱しないものとなりました。家元を代々正統的に受け継ぎ、守ってこそ、立派な弟子なのです。自身も権威に守られ、権威を示すことができます。文法は科学であり、伝統芸能ではないはずなのに、研究者の意識は伝統芸能的です。